

# 名古屋の未来につなぐ流れる屋根と集いの広場

リニア中央新幹線開業という新たなモビリティの時代を象徴する、流線形の広場空間を提案します。世界とつながる新たな交通の結節点として、多様な人々の移動と滞在が交ざりあいまちのアイデンティティを表出させる、ここにしかない駅広場を目指します。

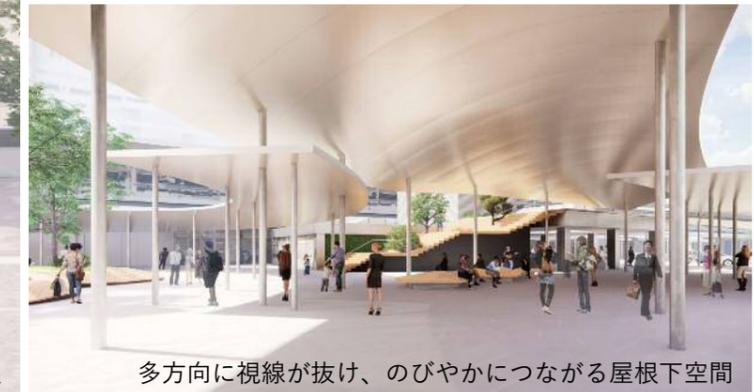


まちのにぎわいを迎え入れる象徴的で開放感のある連なる屋根

次点：高池葉子建築設計事務所 提案書【抜粋】  
 ※本提案書はプロポーザルを実施にあたり提出されたものであり、本市の計画案として決定したものではありません。計画案は関係者との会議等をふまえ、決定する予定です。



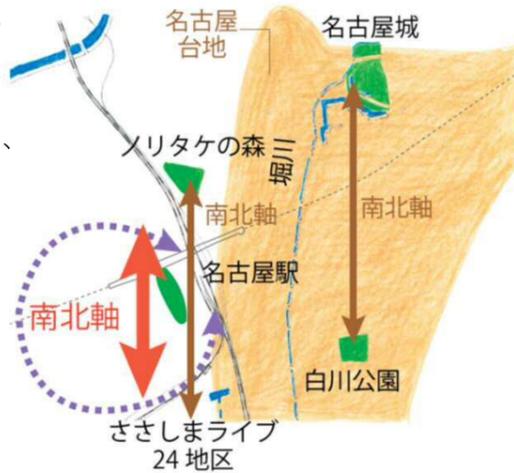
人々を包み込む開放的な迎える広場



多方向に視線が抜け、のびやかにつながる屋根下空間

## ■名古屋のまち全体の一体感と回遊性を向上させる広場

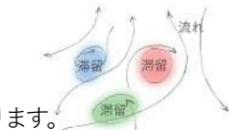
名古屋の都市を構成する主要な軸線は「南北軸」です。かつて、名古屋城と熱田湾が堀川によりつながることによって、名古屋は発展しました。名古屋台地は名古屋城から熱田神社にかけて南北に広がっています。現在も、名古屋駅東側エリアを中心に南北のつながりが多く存在します。西側エリアにおいても既存の商店街の東西軸に、南北軸を重ね合わせることで、まちの深みがにじみ出します。2本の軸の骨格に、屋根やテラスを重ねることで、誰にとっても明快な動線をつくり、人々のアクティビティを誘発し、名古屋のまち全体の一体感と回遊性を向上させる駅前広場を目指します。



## ■空間のコンセプトイメージ

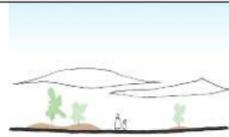
### 1.名古屋の「顔」となり滞留できる3つの集いの場をつくります

まちからの「顔」をつくり、ゲートとしての「迎える広場」  
 バスの待合や地域のイベント利用ができる「バスまち憩いの広場」  
 リニア駅上部空間広場まで一望できる「展望テラス」の3つの集いの場をつくります。



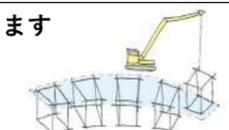
### 2.屋根のダイナミズムが「流れる屋根」の風景をつくります

動きと流れのある屋根下空間は、豊かな植栽や集いの場と相互に浸透し合っており、一体的で開放的な広がりをもたらします。これまで名古屋にはなかった「流れる屋根」の風景をつくります。



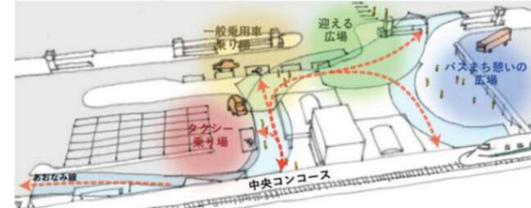
### 3.屋根フレームのユニット化により分節・解体のしやすい計画とします

屋根フレームがユニット化されていることで、分節・解体のしやすい構成となっています。このため将来の重層的な拠点の形成にもフレキシブルに対応することができます。



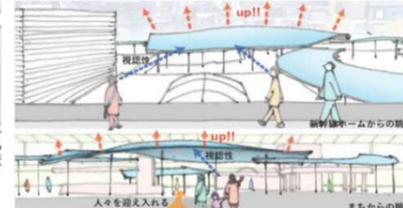
## □駅前機能それぞれに応じた回遊性と滞留を引き出す屋根形状

名古屋駅西口広場のそれぞれの機能に対して、回遊しながらも滞在できるような流れる屋根をかけます。それぞれの屋根は、幅を広くしたり、道路に対して高くしたり低くしたりすることで、西口広場全体に多様な場所を創り出します。それぞれの駅前機能と回遊性をもって結びついた屋根には、多様な場所がある事で、色々な場所で色々な人が憩える場所を創り出します。



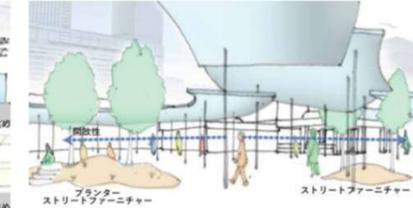
## □まちと駅の相互の「顔」になる屋根と広場

色々な屋根の中、迎える広場の屋根は、人々を迎え入れるように、高さを持ち上げる計画とします。持ち上げられた屋根と広々とした広場は、新幹線名古屋駅に訪れる人々が、ホームから第一に目視できる「顔」となり、まちの商店街通りからくる人々の「顔」にもなります。



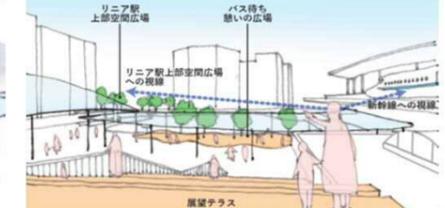
## □外構と連続したストリートファニチャー

屋根と連動して、各箇所に広場とベンチを設けます。離散したベンチでは、感染症等を気にせずに憩うことができ、広場では、プランターを兼ねたストリートファニチャーを計画します。広場の開放性は確保しながらも、緑にあふれる人々が親しみやすい空間を創り出します。

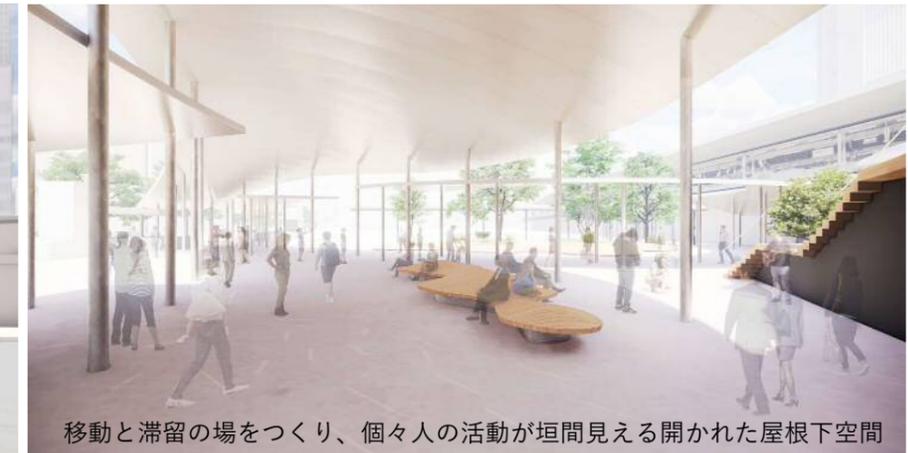


## □西側エリアと駅舎を一望する展望テラス

既存地下街への階段の屋根は、人々が上がるようにし、広々とした階段を設ける計画とします。展望テラスからは、将来できるリニア駅上部空間広場まで臨むことができ、新幹線車両を一望できるようにすることで、リニア新幹線と新幹線の時をつなげた景観を創り上げます。



持ち上げられた屋根が駅とまちをつなぎ、軒天のアルミ仕上げが風景を柔らかく映しながら、西口の人々の賑わいを包み込む



移動と滞留の場をつくり、個々人の活動が垣間見える開かれた屋根下空間